

ごあいさつ

長野県中野土地改良区

理事長 中村 幸次郎



土地改良報の発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

組合員の皆様方には、日頃より、当土地改良区の運営や各種事業推進に対し、深いご理解とご協力をいただいておりますことに心より厚く御礼と感謝を申し上げます。

本年は、年明け早々、最大震度7を観測した能登半島地震が発生、輪島市や珠洲市などで、200名を超える方が犠牲となられ、今なお、多くの方々が、避難所での厳しい生活を余儀なくされておられます。

中野市におきましては、きのこの生産施設で、栽培容器が落下するなどの被害がございましたが、幸いにも、人的被害などの大きな被害は見られませんでした。

まずをもって、お亡くなりになりました方々のご冥福をお祈りすると共に、被災されました全ての皆様へ、お見舞いを申し上げます。

当土地改良区の施設においては、各機場等に大きな損傷は見られませんでした。地中に埋設されている管路につきましては、引き続き注視しながら、役職員一同、安定した水の供給が行えるよう取り組んで参りますので皆様方のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

また、昨年の夏は非常に暑い日が続き、各地で猛暑日や真夏日の日数が、過去最高となったばかりではなく、中野市の周辺地域においてはまとまった雨が降らず、干ばつ状態が続きました。

その様な状況の中、当土地改良区の水源である千曲川の水位が低下するとともに、中野揚水機場の水位計及び取水ポンプの満水感知機にも不具合が生じ、一時、取水が出来ない事態が発生してしまいました。

水位計及び満水感知器の不具合解消後においても、千曲川上流域の豪雨で千曲川が濁り、取水が出来ず、一番に水が必要な時に、散水が出来ない事態が発生してしまい、組合員の皆様には、ご心配とご迷惑をおかけしてしまいましたことを、深くお詫び申し上げます。

「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が来た。」と、国連の事務総長が警告をうながしたように、これからは、私たちが経験したことの無いような異常気象が続いてもおかしくはない時代だということ認識し、今まで以上に、畑かん施設の維持管理や、関連部署との連携を強化するなどして、必要な時に、畑に水を送れる体制づくりを強化するよう取り組んでまいります。

さて、本年は、8月に総代、9月に役員のご改選がございます。次の4年間は、各機場のポンプ施設や水管橋などの老朽化した畑かん施設の更新に向けて、待ったなしの対応が求められているだけではなく、新たな農業形態に対応した畑かん設備の構築や、少子高齢化、後継者不足が、さらに進んで行く中での土地改良区運営や男女共同参画が叫ばれている昨今、女性理事の登用といった新たな課題も求められており、将来を決める大切な4年間であると感じております。

そうした状況の中、県や市などとの連携を強化し、組合員の皆様方の負担増にならないように、努力して参る所存でございます。

結びに、組合員の皆様方のご多幸とご健勝をご祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。



中野揚水機場



赤岩揚水機場・柳沢第4加圧機場



竹原揚水機場